



EL SALVADOR

学校名：飯能市立加治小学校

氏名：寺西 雅子

〔担当教科：小学校全科〕

- 実践教科等：社会、学活、道徳、国語
- 時間数：7 時間
- 対象生徒：小学校 5 年生
- 対象人数：32 人（96 人）

〔1〕単元名

心が通じ合う人間関係をつくるために ～国際理解教育を通して～

〔2〕単元の目的/目標（ESD の能力・態度）

- ・世界の多様な文化・生活を知り、自分たちと同じところと違うところがあることに気付く。
(進んで参加する態度)
- ・世界の食料生産や貿易の仕組みを知り、世界の実情を理解する。(批判的に考える力)
- ・世界の子どもたちの現状を知り、自分のできることを考えることができる。(他者と協力する態度)
- ・「違い」を乗り越えて、心が通じ合う人間関係をつくるために行動目標を自己決定できる。
(多面的、総合的に考える力)

〔3〕ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・エルサルバドルの学校生活と日本の学校生活の違いに気付く。【多様性】
- ・世界の国々は、食料生産や貿易を通してつながっていることに気付く。【相互性】
- ・人類共通の願いである「生きる喜び」は、人と人との間にあるどんな「違い」よりも最優先されるべきであり、そのために自分ができることを考える。【連携性】

〔4〕単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【日本のことを紹介しよう】 エルサルバドルの小学生に手紙を書くことで、エルサルバドルに興味を持つ。 (国語)	・エルサルバドルの位置を地図で確認する。 ・担任が夏休みの研修で行くことを話し、伝えたいことを考える。 ・「日本の良いところ」「私の宝物」「私の好きな日本」の中から一つ選んで手紙を書く。	・地図 ・手紙	・学習活動の観察 ・手紙の内容
2	【エルサルバドルってどんな国】 エルサルバドルの写真を見てエルサルバドルについて知り、日本とのつながりを考える。 (社会：5 年)	・エルサルバドルの基本情報（言語、通貨、主食、民族など）を確認する。 ・クイズ形式で、町や村の風景、食べ物、家の中、学校などエルサルバドルの様子を知る。 ・エルサルバドルと日本のつながりについて考え、技術支援について知る。	・掲示資料 ・地図 ・パワーポイント	・学習活動の観察
3	【世界中の子どもたちとともに】 世界の子どもたちの現状を知り、自分のできることを考える。 (道徳)	・銃を持っている少年や働く子どもたちの写真や予防接種の普及率のグラフを見て、ユニセフの活動を知り、自分たちにできることをグループで話し合い発表する。	・道徳副読本 ・「心のノート」 (文部科学省)	・学習活動の観察

4	【日本の食卓と比べてみよう】 世界の食事から、国の違いや食料自給率の問題を知る。 (社会)	・班に与えられたそれぞれの国と日本の1週間分の食糧を比べて気付いたことを模造紙に書きこむ。 ・食べ物や人の様子から、国名を考える。 ・班で話し合っ、発表する。 ・国によって食料自給率に違いがあり、お互いに支え合っていることを知る。	・「世界の食卓」 フォトランゲージキット	・学習活動の観察
5	【自分と同じところを見つけよう】 外国の異文化の中に、自分と共有される多くの感性や思いがあることに気づき、異文化を理解しようとする心を育てる。 (道徳)	・「同じ空の下で」を読み、世界の子どもたちの写真を見て、自分と同じところを見つける。 ・外国の言葉や文化にふれたとき、どのように関わっていくか考え、発表する。	・道徳副読本 ・「心のノート」 (文部科学省)	・学習活動の観察 ・ワークシート
6	【貿易の仕組みを知って、世界について考えよう】 貿易が必要な世界の構造を知り、国と国との連携について学習する。 (社会)	・自分たちの班に与えられた条件でものを生産し、お金を稼ぐ「貿易ゲーム」を体験する。 ・条件の不公平を実感しながら、国と国との連携の必要性を話し合う。	・「貿易ゲーム」 セット	・学習活動の観察
7	【心が通じ合う人間関係をつくるために】 自分と異なる友だちを理解し、仲の良い集団をつくるために自分ができることを考え、実践する。	・4つのアンケートの結果から、クラスの問題を理解する。 ・エルサルバドルと自分たちの学校生活の写真を比べ、「同じ」と「違う」を見つける。 ・「同じ」は、「違う」に比べ人類共通の願いであることに気づかせる。 ・自分と異なる友だちと仲良くなるために自分がんばることを「がんばり宣言」に書いて発表する。	・アンケートの集計用紙 ・「エルサルバドル」と「5年1組」の写真を使ったフォトランゲージ ・ワークシート	・学習活動の観察 ・ワークシート

〔5〕授業の詳細

1 時限目：【日本のことを紹介しよう】

担任が夏休みにエルサルバドルに研修に行くことを告げ、「エルサルバドルってどんな国だ？」という興味を引きつけておき、1学期に社会科で学習した気候や大陸、食べ物など簡単な説明をした。エルサルバドルの小学生に手紙(3つの題から選ぶ)を書かせることで、エルサルバドルに興味を持たせるとともに日本と比べる視点を持たせるようにした。8月の研修には実際に子どもの手紙を渡した。

《手紙の題》

①日本の良いところ②わたしの好きな日本③わたしの宝物

ココがポイント！

- ・相手をイメージしながら手紙を書かせることで、エルサルバドルの子どもたちに親近感をもたせる。



〔日本のことを紹介しよう〕

[手紙を書く子どもたちの様子]

2 時限目:【エルサルバドルってどんな国】

* 5 学年全員 (96 人) に、授業を行った。

パワーポイントを使って、町の様子、村の様子、食べ物、家の中の様子、学校の様子、日本との絆をクイズ形式で紹介した。日本との絆では、JICAの活動について話をした。



[パワーポイントを使った授業]

ココがポイント!

- ・町の様子では、子どもたちに身近なマクドナルドやサッカー場の様子を加えた。
- ・クイズ形式にすることで、子どもたちに考えさせる場面を設けた。



ともに】

ちとともに」を使って、世界の活動を通して自分たちの

くみ)②「じゅうを持つ少年」
と井戸」の写真④「働く子ども
の状況」⑥「小学校に通える状
たちと同じくらいの年齢の子ど

もたちが過酷な状況にめることを学習した。

その後、「心のノート」を使って自分たちにできることを話し合い発表した。

[心のノート]

(児童の感想)

- ・日本の技術とかを教えてあげること、困っている国を助けることができると思う。
- ・仲良くすることで、戦争がなくなるといいな。
- ・募金活動をしてみたい。
- ・大人になったら、困っている人を助ける仕事をしてみたい。

4 時限目:【日本の食卓と比べてみよう】

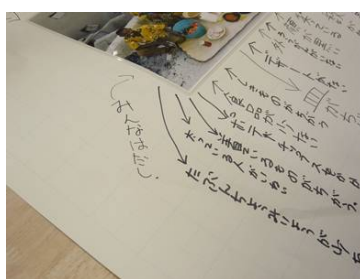
社会科「わたしたちの食生活の変化と食料生産」の導入として、「世界の食卓」の写真を使ってフットランゲージを行った。この単元のめあては、「(日本の)家庭の食生活の変化によって、食料品の輸入が増え、食料自給率が減少するなどの問題が生じていることを理解する」である。そのため、日本と外国の2枚の写真を模造紙に貼り、日本と比べることを活動の中心にした。

①外国は、アメリカ、中国、オーストラリア、ブータン、マリ、イギリス、エクアドル、インドの写真を使い、8班に分かれてフットランゲージを行った。

②気付いたことを模造紙に書いた後、それぞれの外国の名前を予想した。

③班のリーダーが、気付いたことと国名、そう考えた理由を発表した。

④国によって食べている物(加工食品、輸入食品など)や量に違いがあることに気付かせ、食料自給率という言葉を押さえたあと、食料自給率に違いがあることやそこから起こる問題についてこれから学習することを話した。



【フォトランゲージの様子】

【記入の様子】

【発表の様子】

ココがポイント！

- ・最初に、エルサルバドルの食べ物の写真を黒板に貼り、興味を持たせた。
- ・社会科の導入なので、日本の食料生産と特徴を中心に考えられるように、日本と外国の写真を2枚貼って比べられるようにした。

5 時限目：【自分と同じところを見つけよう】

道徳教材の「同じ空の下で」のめあては、「外国の人々や異文化の中に、自分と共有される多くの感性や思いがあることに気づき、仲良くしようとする気持ちを育てる」である。この授業から、7時限目の「心が通じ合う人間関係をつくるために」につなげていきたいと考えた。

教材には、①「トロフィーを持つ少女」②「涙をためた少年」③「笑っている子どもたち」の写真と「出生1000人当たりの5才未満児の死亡数」の地図が資料として載っている。写真の子ど



【心のノート】

もたちはどんな気持ちなのかを考えさせ、国や文化が違っても感性や思いは同じであることを、話し合いを通して考えさせた。その後、「心のノート」を使って、自分の考えをまとめた。

6 時限目：【貿易の仕組みを知って、世界について考えよう】

社会科「工業生産と貿易」の導入として、「貿易ゲーム」を行った。この単元のめあては、「日本の工業生産における原材料や製品の貿易の様子に関心をもち、進んで調べることを通して、工業生産や国民生活を支える日本の貿易の特色や役割を理解する」である。そこで「貿易ゲーム」を通して、貿易の構造を体験的に学び、不公平を実感させ、連携の必要性を感じさせたいと考えた。

- ①時間が1時間しか取れなかったので、前の時間にルールの説明と班分けをした。
- ②導入で、前時に「『工業』とは、ものに道具や機械を使って手を加え、形や性質を変えて人の役に立つもの(製品)を作る産業」であることを確認した。
- ③A班(先進国)2つ、B班(新興国)2つ、C班(開発途上国)1つ、D班(資源のない開発途上国)1つ
- ④ゲーム終了後、それぞれの班が気付いたことや感想を発表させた。

ココがポイント！

- ・各班に与えられた条件が違ふことで、ゲーム開始直後混乱が見られたが、子どもたちが自発的に貿易を始めるまで見守った。
- ・ゲーム終了後、日本はどの班に似ているか考えさせることで、日本の貿易の特徴を掴ませるようにした。また、同じように、エルサルバドルに似ている班を考えることで、開発途上国の問題点に気付けるようにした。
- ・D班(資源も工業技術もない国)をつくることで、支援を必要とする国の現状を実感することができた。

- ⑤条件の不公平を実感しながら、国と国との連携の必要性を話し合う。

(児童の感想)

- ・みんなが困っている中で、たくさんお金が儲かって嬉しかった。(A班)
- ・みんなが「貸して」と言うので、ハサミやコンパスを貸したら、自分たちが作れなくて困った。(A班)
- ・コンパスがなくて困ったけれど、「借りればいいんだ」ということに気が付いた。(C班)
- ・...パナマは資源も工業技術もない国をつくることで、支援を必要とする国の現状を実感することができた。(D班)

7 時限目：【心が通じ合う人間関係をつくるために】

学級活動の(2)として行った。今回の6つの授業実践のまとめとして、授業を計画した。

- ①事前にアンケートを実施して、クラスの問題を把握(計画委員に検討させる)。導入で、計画委員にアンケートの結果を説明してもらい、課題を提示する。

(アンケートとその結果)

- ①外国の友だちが欲しいですか？(Yes. 78%、No. 22%)
- ②外国の人と仲良くすることは、大切だと思いますか？(Yes. 93%、No. 7%)
- ③クラスの中の誰とでも仲良くすることが出来ますか？(Yes. 50%、No. 50%)
- ④クラスの中の誰とでも仲良くすることは、大切だと思いますか？(Yes. 93%、No. 7%)

(クラスの課題)

これまでの様々な活動から、異文化や外国人に対する理解が深まった。その結果、外国の人には仲良くしたいという気持ちを持ち、それが大切だと感じられるようになった。しかし、身近な友達に対しては、仲良くすることは大切だと思っているが、実際の生活の中では自分と異なる考え方やものの見方をする友だちを理解することは難しいと感じている児童が多い。外国の友だちを理解するように身近な友達も理解すること、このことが今の5年1組の課題である。

②エルサルバドルと自分たちの学校生活の写真を比べて、フォトランゲージを行い、本質的な「違う」と「同じ」に気付かせる。

(フォトランゲージで書かれた内容)

＜同じ＞

・みんな笑顔、みんな勉強に一生懸命、楽しそうに遊んでいる、おいしそうに食べている、みんな夢中、掃除を一生懸命している、大きい子が小さい子に教えている

＜違う＞

・肌の色、食べている物、着ている服、遊び方、学校の様子、床の色、バケツの形

③気付いたことを話し合い、班ごとに発表する

(話し合いの方向性)

・「違い」として、清掃用具、給食のメニュー、遊び方などが挙げられ、「同じ」としてきれいになる喜び、仕事への責任感、友だちと一緒に遊んだり勉強したりすることなどが挙げられる。この「同じ」は、どんな「違い」よりも最優先される人類共通の願いであり、どの国のどの人にも尊重されるべき願いである。そして、この考え方は「助け合う」という「共生社会」の考え方の第一歩であり、5年1組の課題を解決する方法ではないか。

④「心が通じ合う人間関係をつくるために」自分ができることを「がんばり宣言」に記入し、宣言する。

2週間、めあてに沿って実践する。

⑤実践への意欲化を図るために、「戦争を取材する(山本美香著)」を読む。



[アンケート結果を説明する様子]

[フォトランゲージの様子]

[宣言書を書く様子]

.....
ココがポイント！

- ・アンケートを実施し、計画委員が分析することで、クラス全体の課題としてとらえさせた。
 - ・自分たちの写真を使うことで、その時の気持ちを考えやすかった。
 - ・宣言をさせることで、自分の意志決定をさせた。
-

[6]児童の反応／変化

【「がんばり宣言」の記入内容】

- ・「お友だちと絆を深めるために、一緒に遊んだり、いろいろ教え合う。」
- ・「友だちと協力しあったり、支え合う。」
- ・「積極的に自分から話しかける。」
- ・「だれとでも仲良く、笑顔で過ごす。」
- ・「一日に1回、全員と話す。」

【実践後の児童の感想】(2週間後)

- ・「二週間で私は変わったな、と思いました。前は、男子には時々話しかけ [私のがんばり宣言] くらいだったけれど、もう、全員に話しかけられるようになった。これからは、他の学年の人にも話しかけてみたいです。」
- ・「誰とでも仲よくするっていいことだと思った。これからも、友だちと仲良くしていきたい。」
- ・「人と話すと楽しいと思った。だから、これからも、続けたい。」
- ・「がんばり宣言をやって、前よりも友だちが増えた。」

【7】授業実践の成果と課題

エルサルバドルに関連する授業を通して、世界の現状に興味をもち、共生社会をつくっていく第一歩として、5年生としてできることを考え実践することを目標にした。

授業を重ねるごとに外国に関する興味関心が強くなり、子どもたちの会話や発言などに外国に対する理解や協力、思いやりの気持ちが表れてきた。そこで、この気持ちを5年生なりに実践するために身近な友だちに目を向けさせた。そして、自分と異なる考え方や性格の違う友だちを受け入れ、協力し、心が通じ合える学級をつくるために自分にできることを宣言し実践させた。二学期後半から、学級の雰囲気が穏やかになり、班活動や体育のチームプレイや学期末の学級レクなどに協力し合う姿が見られた。また、男女が仲良く遊んだり、多人数で活動するようになった。

課題としては、環境が変わっても自分たちで考え行動できるように定着させていくことである。修了式まで残り短い期間であるが、実践を続けていけるように支援していきたい。

【8】参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『写真で学ぼう！地球の食卓 学習プラン10』 開発教育協会 2010年
- ・『新・貿易ゲーム』 開発教育協会 神奈川県国際開発協会 2007年
- ・『世界への扉 戦争を取材する』 山本美香 講談社 2011年

【9】使用教材(写真／図などの実物)

添付(7時限目 フォトランゲージ エルサルバドルの子どもたちと自分たちを比べる 一部抜粋)



【昔のおもちゃで遊ぶ様子】

【掃除をする様子】

【学習する様子】

【10】教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

学びの多い一年間であった。国際理解教育の視点、授業実践のスキル、現地での研修、そして一緒に研修を受けた仲間との交流。学校の仕事と重なり大変な時期もあったが、自分自身も成長を実感する一年間になった。

しかし、来年度からは自分で情報を収集し、計画を立て、学んでいかなければならない。仲間との交

流を大切にしながら、アンテナを高くし、そしてこれからの国際社会で必要とされる子どもたちを育てていきたいと思う。